

1. 調査概要

以下の基本計画にそって調査を実施した。

(1) 旧宗像市に関しては、主要地点（今回の調査重点地域を含む）において前回（平成6年度：九州環境管理協会、1995）の調査結果の再確認を行う。とくにカスミサンショウウオ、ブチサンショウウオ、ニホンアカガエル、タゴガエル、シュレーゲルアオガエルについては、個体数の推移傾向、生息環境の変化等に関するデータを得るよう努める。

(2) 旧玄海町・大島村では個人的に多少の分布データを有しているが、体系だった資料はない。したがって普通種についても一応全域を対象とした調査を行うこととする。旧玄海町に隣接する旧津屋崎町の調査（平成16年度：津屋崎町自然環境調査研究会、2004）ではカスミサンショウウオ、ニホンアカガエルの生息が確認されているので、この2種についてはとくに重点的に探索を行う。

(3) 両生類の調査は成体の目撃情報のほか、卵塊・幼生・鳴き声によって生息を確認する。爬虫類を目撃する機会はきわめて少ないため、両生類調査の際に得た情報に頼らざるをえない。聞き取り調査は正確さに欠けるので、アカハライモリ、ウシガエル、ニホンヤモリなど、一般の人にとって間違いなく同定できる種に限定する。（なお、別途実施したアンケート調査は、この3種に限定した）

その後、分布情報をメッシュで表示することとなり、旧宗像市についても普通種の分布を再確認することとし、分布情報に精粗のないようほぼ宗像市全域を調査の対象とした。2005年11月末にいくつかの調査重点地域や旧玄海町の溜池を中心に何度か下見を行い、実際の調査は両生類の繁殖期にあたる2006年2月から6月にかけて実施した。調査はすべて日中に行い、夜間調査は行っていない。なお、前回の旧宗像市の調査以降に集めた分布データを適宜参照した。

保全すべき種の基準としては、福岡県レッドデータブック（福岡県環境部、2001）で絶滅危惧に指定されている種のほか、宗像市内で個体数のきわめて少ない種や分布域が限定されている種とした。ただし、爬虫類では分布データが少ないため評価が困難であり、保全すべき種を選定していない。